

いった教育施設があるのか全然わからないので町と連携して町のホームページに情報を掲載してもらえれば、子育てしている世帯は助かるなと思います。

読書の推進活動をしているということですが、私の出身の田村市の中学校では、朝の10分間読書というのがありまして、そういうものを小中学校で導入してみれば、読書の推進につながるのかなと思います。

同世代間の コミュニケーションの場を 先崎千穂さん

小 野町に来てもらえる、いてもらえるようにすることが人口を維持するのに大事なことだと思います。

結婚は町外から呼んだりというのがあると思うんですが、友達の紹介とかで付き合いが始まることも多

いと思います。同世代間のつながり、コミュニケーションをとることが結婚、出産へつながっていくと思います。

教育では学校で漢検などの資格を取れる仕組みができていかなど感じました。ほかの町の人も小野町はそういうのができていいねという話もしました。意欲的な子どもにはもともととやらせてあげたらいいのかなと思います。

学力を向上させて、将来長い目で見て戻ってきてくれるような環境を作ればいいのかなと思いました。



先崎千穂さん

トークテーマ2

活気にあふれ、賑わいを実感できる
しごとづくり・新しい人の流れづくり

若者がオンラインワ ンになれる町に 古崎泰介さん

仕 事が必要な若い世代には、それぞれのスキルや経験を活かせるこれからの時代に柔軟に対応できるような生活基盤となる場を提供することが必要だ



古崎泰介さん

と思います。

UターンやIターンする若者について、若い世代が都会ではなく地方に定住するには住み心地よく生活できることを感じてもらうことや自分の活躍する場があると実感できることが重要だと考えています。都会では競争が多くて実現することが難しいと考えていた仕事でも、小野町だったらオンラインワゴンになれる。小さな成功を手に入れることができるかもしれない。そういういったことに自分自身の目的や人生の希望を持った若者へ町や地域が後押しができればいいのかなと考え

ていて、そういった若者にぜひ集まってもらいたいと思います。

新しい雇用が 生まれるための施策を 吉田仁さん

こ 数年田村管内で、東京や神奈川からの新規就農者が増えていきます。土地を準備してくれた先輩方のサポートや意見交換ができた。そういうのがあるから魅力があった、ここで就農したいっていう人が増えていきます。

小野町の農業はとすると年配の人が増えていて、体が動かなくなったり、新しい機械や施設に投資ができるかといったとらとりあえず食べていければいいかなとか。となると雇用が生まれないんですね。

ミネラル野菜についてもどこに発信しているのかわからない。どこで買えるの